



7 近畿ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 大

(独) 国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター
HIV感染制御研究室 室長

研究要旨

本研究の目的は、近畿ブロックのHIV診療レベルの向上と連携強化、歯科や精神科疾患、救急医療、透析医療、長期療養の診療体制の整備などの課題の解決に資することにある。方法は主に、研修会の企画および実施と近畿ブロックにおける中核拠点病院打ち合わせ会議の開催である。各府県では中核拠点病院が中核となり診療が円滑に行われるようになってきている。その一方で、HIV感染者の一般医療への需要があり、拠点病院に加えて、一般の医療施設の参加が必要な状況であることが明らかになった。今後は、長期療養が必要なHIV感染者が、安心して療養できるような診療体制の整備が必要と考える。

A. 研究目的

近畿ブロックは滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の2府4県からなる。全国の都道府県でHIV感染者・AIDS患者の報告数が2番目に多い大阪府が含まれるが、残りの5府県では大阪府ほどの報告件数はないものの、HIV診療における課題は少なくはない。大阪府においては、エイズ診療ブロック拠点病院（以下ブロック拠点病院）と中核拠点病院に、残りの府県においては中核拠点病院を含む特定の拠点病院に患者が集中する傾向にある。患者集中の問題はあるものの、各府県では中核拠点病院が中心となり抗HIV療法は円滑に行われている。その一方で、予後の改善したHIV感染者の長期治療において、HIV感染症以外の一般医療への需要が増加し始めている。例えば感冒や胃腸障害、整形外科的問題で遠方の急性期病院である拠点病院に受診するのではなく、近隣のクリニックや夜診を行っている病院の受診を希望する患者も少なくはない。このように拠点病院以外の医療施設の参加が必要な状況であることが明らかになってきた。長期療養が必要なHIV感染者が安心して療養できるような診療体制の整備、つまり拠点病院と拠点病院以外の病院との病連携や病連携も踏まえての医療体制を整備する必要がある。このようなHIV感染症診療の質の変化に伴い、透析クリニック、精神疾患や要介護患者の受

け入れ施設などが少ないことは新たな課題となっており、診療上の種々の課題に伴った研修会の実施が必要である。

B. 研究方法

研修・教育に用いた資料は添付の通りであった。本研究班で作成した資料は「あなたに知ってほしいこと」(<http://www.onh.go.jp/khac/data/kanja-panfu12.pdf>)、「カウンセリングのご案内」、「HIVカウンセリング制度のご案内」、「Healthy&Sexy」(<http://www.onh.go.jp/khac/data/healthy-sexy2014.pdf>)の4点である。2点については当センターホームページからダウンロード可能である。

(倫理面への配慮)

研修・教育に用いた症例呈示では、患者個人が特定されない等の配慮を行った。

C. 研究結果

2017年度の研修会実施実績は添付の通りで、11件であった（開催予定を1件含む）。中核拠点病院および各自治体でも研修会が企画、主催された。講義形式のものが6件、ロールプレイも含まれるものが3件、臨床現場（診察等）も含まれるものが2件であり、講義形式のものが最も多かった。対象とな

った職種は医師（1件）・歯科医師（1件）・看護師（4件）・カウンセラー（1件）・MSW（1件）・多職種（3件）であり、多くの職種が対象となっていた。

情報発信においては、ホームページの運営は重要であるが、ホームページでは2つの点において改訂を行った。拠点病院外で発生したHIV感染者による医療従事者の血液・体液曝露（針刺しなど）、いわゆる「外部PEP」に関する情報のアップデートを行った。大阪府

（<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikansen/aids/harisasi.html>）や大阪府医師会（<http://oma-member.do.ai/info.html>）のホームページにも外部PEPの情報は掲載されているものの、最初に当センターのホームページで情報を確認する医療従事者も少なくなかった。この変更を行った以後、数例の外部PEP症例が当院外来を受診したが、全例スムーズに対応ができていた。また、HTML/CSS/Javascriptを導入し、ホームページのプログラムの全面的書き換えを行った。これにより、スマートフォンやタブレットでの表示の最適化や、検索エンジン最適化、PCやスマートフォンなどでの表示の高速化が得られる予定である。院内のWEBサーバーのアップデートが終了次第、当センターのホームページのアップデートを行う予定である。

中核拠点病院会議を2017年10月14日に実施した。各中核拠点病院におけるHIV診療の課題において、行政の担当者とともに共通認識を持つ場とした。薬物依存症・高齢者・透析・外国人における医療機関と行政の連携については、次回の検討課題となった。

D. 考察

今年度も11件の研修を行った。注意すべきことは、近畿ブロックではこれらの研修会以外にも、多くの研修会を実施していることである。例えば、本研究班主催では薬剤師を主な対象とした研修会を行っていないが、それらの研修会は関西臨床カンファレンス（<http://www.kansai-hiv.com/index.html>）が主催で行っている。さらに、関西臨床カンファレンスでは薬剤師向けに加え、若手医師向け研修会（スキルアップセミナー等）・NGOやNPO交流会、カウンセリング部会なども行われている。研修・教育効果の評価方法については、今年度は十分なデータがなかったため、次年度の課題とした。昨年度より研修会の一部の講義でクリッカーを使用するようにし

た。アンケート調査では、クリッカーの使用に関しては概ね良好な回答が得られた。

上記のように、近畿ブロックでは中核拠点病院や行政が積極的に研修会を開催し、一般医療機関や施設のほか、各職種に向けた研修会が数多く開催された。大阪府の歯科診療においては、大阪府歯科医師会や行政が中心となりネットワークが形成された。即日で紹介できる歯科医院は減ったものの、受け入れに関して困るような状況はほぼ無くなった。しかし、一般医療機関や長期療養施設の受け入れが進んだとは言えず、HIV感染症が治療による予後の著しい改善に伴う慢性疾患であるという認識の周知と、改善に向けたさらなる取り組みが必要と考える。

受け入れをスムーズに行うためには、HIVの曝露後予防の対応が必要になってくる。この点も行政を中心に体制整備を行い、大阪府では11箇所のHIV感染予防に対する受け入れ病院が配置された。職業曝露後のファーストコンタクトとして、当院を選択する医療従事者が少ないことを考慮して、今年度はホームページの改訂を行った。いまだに曝露源患者が不明の曝露でのPEPの希望やHIVスクリーニング陽性・確認検査陰性でのPEP継続に関する質問なども少なくなく、今後も継続的な情報発信・教育に努める必要がある。

E. 結論

近畿ブロックでは、中核拠点病院が各府県のHIV診療の中核を担うようになった。今後もブロック全体で質の高い診療を続けるためには、人材の育成、病院間連携の強化が必要と考えた。歯科診療、精神科疾患、長期療養、透析、救急医療の診療体制の整備も重要な課題である。拠点病院間や行政との連携の強化のみならず、地域全体との密な連携を伴ったHIV診療体制の構築が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

海外

- 1) Togami H, Yagura H, Hirano A, Takahashi M, Yoshino M, Abe K, Oishi Y, Takematsu S,

Kakigoshi S, Yamamoto Y, Ito T, Yamamoto M, Mizumori Y, Kanei O, Utsumi M, Watanabe D, Yokomaku Y, Shirasaka T. Correlation between UGT1A1*6 and *28 genotype, and plasma dolutegravir concentrations in Japanese HIV-1 infected patients. 9th IAS Conference on HIV Science (MOPEB0328), 24 July 2017, Paris, France

国内

- 1) 渡邊 大：Tenofovir Alafenamide based regimenの臨床的有用性（ランチョンセミナー）ゲンボイヤ®配合錠の使用経験。第91回日本感染症学会総会・学術講演会、東京、2017年4月6日
- 2) 中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、佐光留美、土井敏行、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨。当院におけるエルビテグラビル/コピシタット/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド配合錠の初回導入例の使用状況。第27回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2017年5月25日
- 3) 渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨。高IFN- γ 血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第31回近畿エイズ研究会・学術集会、大阪、2017年6月3日
- 4) 廣田 和之、西田恭治、矢口愛弓、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、上平朝子、巽 啓司、白阪琢磨。血栓止血子宮全摘術の止血管理に半減期延長型VIII因子製剤を使用した血友病A保因者の一例。第39回血栓止血学会学術集会、名古屋、2017年6月10日
- 5) 渡邊 大。HIV感染症、併発症の最新治療について。北陸ブロック医療等相談会、福井、2017年9月30日。
- 6) 白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、金井 修、上平朝子。感染早期患者に対するMVCによる強化療法の効果に関する研究。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日
- 7) 渡邊 大、上平朝子、鈴木佐知子、松本絵梨奈、笠井大介、廣田和之、南 留美、高濱宗一郎、林 公一、澤村守夫、山本政弘、白阪琢磨。高IFN- γ 血症と高IL-6血症を呈するHIV-1感染者の臨床的特徴に関する検討。第71回国立病院総合医学会、香川、2017年11月10日
- 8) 新井 剛、渡邊 大、上地隆史、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、永井崇之、宮田順之、吉村幸浩、立川夏夫、上平朝子、白阪琢磨。アドヒアランス良好

かつ耐性変異が無いウイルスへの抗HIV療法でも、長期間血中HIV-1-RNA量低下を認めなかった2例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日

- 9) 白阪琢磨、渡邊 大、山本政弘、南 留美、金井修、上平朝子。HIV感染早期患者に対するMVCを加えた強化療法の効果と安全性に関する研究。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日
- 10) 齊藤誠司、村上由佳、飯塚暁子、松井綾香、野村直幸、木梨貴博、坂田達朗、草川 茂、木内 英、前島雅美、渡邊 大。妊婦HIVスクリーニング検査からHIV-2の診断に到った日本人妊婦例。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日
- 11) 富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。リトナビル併用ダルナビルからダルナビル・コピシタット配合剤へ変更した症例の臨床検査値および自覚症状の変化。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日
- 12) 矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。日本人HIV-1感染症症例におけるテノホビルアラフェナミドを含む1日1回1錠製剤投与時のテノホビル血漿トラフ濃度に関する検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日
- 13) 渡邊 大、矢倉裕輝、櫛田宏幸、富島公介、戸上博昭、平野 淳、高橋昌明、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨。ドルテグラビルの血中濃度とUGT1A1遺伝子多型が、ドルテグラビル投与後の神経精神系有害事象の発生に与える影響についての検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日
- 14) 山本雄大、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。当院におけるヒトヘルペスウイルス8型関連疾患の検討。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日
- 15) 渡邊 大。プロテアーゼ阻害剤による抗HIV治療戦略（ランチョンセミナー）。プレジコビックス®配合錠の臨床的役割と使用経験。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日
- 16) 岡崎玲子、蜂谷敦子、湯永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊

広、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久。国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月25日

- 17) 近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、蜂谷敦子、横幕能行、林田庸総、湯永博之、渡邊 大、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、今井光信、加藤真吾、椎野禎一郎、吉村和久。日本で流行するHIV-1 CRF01_AEと周辺アジア諸国における流行株との関連。第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月26日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし